

島根県立
古代出雲歴史博物館
NEWS

2013.NOV vol. 29



CONTENTS

2・3	(特集) 企画展「隠岐之国」	6	学芸員通信
4	(特集) 企画展「隠岐之国」／れきはく通信	7	古代セン通信
5	まいぶんセンター通信	8	れきはくごよみ



企画展 神々の国しまね

隠岐之国

島々の歴史と文化

平成25年12月27日[金]～平成26年2月23日[日]

企画展「隠岐之国 ―島々の歴史と文化―

開催期間 2013年12月27日(金)～2014年2月23日(日) 会期中の休館日 1/21、2/18
開館時間 9:00～17:00

隠岐諸島は離島ながらも『隠岐之国』と称され、古代以来一国として扱われていました。現在、この島々を『隠岐』と呼ぶのはその名残です。隠岐は島前、島後と大別され、島前は西ノ島、中ノ島、知夫里島の三島からなり、島後はその北東に位置し、諸島の中でも最大の面積を有しています。

これらの島の歴史は古く、旧石器時代から縄文時代に石器の材料である黒曜石の供給地であったことは広く知られています。その後古代から近世にかけても、その地理的条件を要因とし、独特な歴史文化をはぐくんできました。今回の企画展ではそのような島々の歴史を考古資料、古文書、民俗資料をとおして概観するものです。

● プロローグ

古代以降隠岐が一国とされた事を象徴する駅鈴・倉印を展示し、導入とします。

【主な展示品】 隠岐国駅鈴・倉印（重要文化財）



駅鈴(重要文化財)

● I. 隠岐の黎明

広範囲にわたる地域と交流を結び、独特な歴史文化をはぐくんだ隠岐諸島のすがたを、考古資料によりたどります。

[1] 隠岐諸島の誕生と黒曜石

隠岐諸島の形成とその副産物である黒曜石を軸に、縄文時代以前の状況を紹介します。

【主な展示品】 黒曜石原石、宮尾遺跡出土縄文土器、東船遺跡出土石器

[2] 御食国隠岐

律令時代に成立する「隠岐之国」のなりたちを、その前提となる弥生から古墳時代の様相も含め紹介します。

【主な展示品】 竹田遺跡出土銅剣、大座西遺跡出土銅椀、平城京出土木簡（複製）、兵庫遺跡出土遺物、「関西大学・島根大学共同調査」関連資料



倉印(重要文化財)

● II. 武士の時代と隠岐

[1] みやこから隠岐へ

後鳥羽上皇、後醍醐天皇の配流に関する資料を紹介します。

【主な展示品】 後醍醐天皇編旨（重要文化財）、後鳥羽天皇画像（複製）

[2] いくさと人々の祈り

中世の隠岐の状況を、島内に伝わった歴史資料を通じ紹介します。

【主な展示品】 銅製経筒 銘 隠岐国常福寺、海士町清水寺蔵木造聖観音菩薩立像



清水寺蔵木造聖観音菩薩立像

● III. 太平の世と隠岐

[1] 豊かな産物と海運

隠岐の海産物とその海運に関わる資料を紹介します。

【主な展示品】 正保国絵図、隠州視聴合記、隠岐之国産物帳、浮世絵「焚火の社」

[2] 隠岐騒動

幕末維新期に勃発した隠岐騒動について紹介します。

【主な展示品】 中沼了三肖像、人民告諭大意、尊皇攘夷運動之理由書

● IV. 隠岐の祭りと芸能

隠岐に伝わる特色豊かな様々な祭りと民俗芸能を紹介します。

【主な展示品】 隠岐国分寺蓮華会舞衣装、美田八幡宮十方礼拝衣装



蓮華会舞(重要無形民俗文化財)

● 【エピローグ】世界ジオパーク隠岐の自然景観

世界ジオパーク加盟までの取り組みと隠岐の自然景観を写真パネルなどで紹介します。

隠岐諸島の成り立ちと歴史

島根半島から40km北の日本海に浮かぶ隠岐諸島は、約600万年前に噴火した火山によって誕生しました。その後、地球に何度となく訪れる寒冷期によって、海水面が上下に変動し、火山の縁辺部分が浸食を受けて現在の隠岐諸島が形作られました。

「大地」-地球のプレートや火山の活動、「生態系」-固有の動植物、「歴史」-離島ならではの人の営み、これらのつながりをまとめて見ることができる場所、それが隠岐ジオパークの特徴であり、2013年9月9日に世界ジオパークネットワークへの加盟が認定されました。その隠岐ジオパークを語る上で欠かせないものの一つに黒曜石があります。

黒曜石は隠岐諸島の島後で産出します。そのうち久見と加茂、津井の3ヶ所が有名で、旧石器時代の約3万年前から中国地方で利用されています。旧石器時代の隠岐は島根半島から鳥取県西部までと陸続きになっていた時期が長かったと考えられており、旧石器人は隠岐の黒い石を目指し、陸橋を北へ向かって移動し、黒曜石を入手していたのでしょうか。あるいは、隠岐に住む旧石器人が島根半島や鳥取県西部へ黒曜石を運んでいたのでしょうか。原産地が存在する島後だけでなく、島前でも黒曜石の旧石器が確認されていることから、隠岐全域で人類が活動していたことがわかります。

約3万年前から利用された黒曜石は、その後、縄文時代になるとさらに広域に利用され、四国まで広がっています。縄文時代にはすでに陸橋はなく、はるばる舟で日本海へこぎ出していたはずですが、いかに隠岐の黒曜石が必要なものだったのかがわかります。

火山噴火で誕生した隠岐諸島ゆえに生まれた黒曜石は、島内だけでなく中国地方の人々の生活を支えていたのです。



黒曜石

企画展関連講座

■隠岐リレー講座 全3回

- ◆第1回 平成26年1月12日(日)「中世の隠岐」
講師：古代出雲歴史博物館 主任学芸員 中野賢治
 - ◆第2回 平成26年1月19日(日)「隠岐の相撲・神楽」
講師：古代出雲歴史博物館 学芸情報課長 品川知彦／主任学芸員 藤原宏夫
 - ◆第3回 平成26年1月26日(日)「隠岐の黒曜石」
講師：及川 穰 氏（島根大学法文学部准教授）
- 時間：13:30～15:30 ○定員：各100名 ○無料
○場所：古代出雲歴史博物館 講義室
○申込方法：電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームのいずれかでお申し込みください。

企画展ギャラリー・トーク

■担当学芸員による展示解説。 全7回

- ◆平成26年1月11日(土)・1月18日(土)・2月2日(日)・2月8日(土)・2月9日(日)・2月15日(土)・2月16日(日)
- 時間：11:00～/14:00～ (1日2回) ○受付：企画展入口
- 事前申込みは不要です。企画展観覧料もしくはパスポートが必要です。

企画展関連イベント

■ヒオウギ貝でオリジナルグッズを作ってみよう！

- ◆平成26年1月12日(日)
- 時間：10:00～15:00 ○随時受付 ○参加費：300円



サブカル学芸員による『隠岐之国』展関連ガイド

古代出雲歴史博物館 主任学芸員 神柱 靖彦

みなさん「サブカル」という言葉をご存知でしょうか。「サブカル」とは映画や音楽、マンガなどの「主流ではない文化」を指す「サブカルチャー」の略語です。今回は私が愛してやまない「サブカル」に（むりやり）からめ「隠岐之国」展のみどころを紹介したいと思います。

まずは、民俗分野の展示品の隠岐古典相撲関連資料です。隠岐古典相撲はこの1月に公開された錦織良成監督の「渾身」でも描かれた隠岐の島町伝統の相撲大会です。映画では青柳翔さん演じる主人公が、伊藤歩さん演じる妻をはじめとして多くの人に支えられ、地域の代表として大関の大役を務める様子が、隠岐の美しい自然とともに描かれていました。今回の展示では力士がしめる大巾（化粧まわし）や賞品として力士に授与される柱を展示します。めったに島外で見ることのできない資料ですので、この機会にみなさんにぜひご覧いただきたいと思います。

次は、清水寺（海士町）蔵の木造観音菩薩立像です。この仏像は180cmを超える大型の観音様で作風から平安時代の作と考えられる貴重なものです。この仏像は普段お寺の厨子に納められていますので、今回の展示が初公開となります。「隠岐」・「仏像」と言えば、私はみうらじゅんさん原作の映画「色即ぜねれいしょん」をつい思い浮かべてしまいます。原作者のみうらじゅんさんは昨今の仏像ブームの立役者でこの作品は70年代の隠岐が舞台となっていますが、映画は実際には隠岐以外の場所で撮影されたようですので、実際の隠岐の風景と見比べながらの鑑賞も面白そうですね。

今回の展示では西ノ島町の重要無形民俗文化財の美田八幡宮の十方拝礼の衣裳をお借りして展示しています。この行事は、中世芸能のなごりを色濃く残した独特のもので、私も今回の展示のための調査で拝見しその不思議な魅力に心うばわれてしまいました。みなさんはこの十方拝礼の伝わる西ノ島町の風景が、あのザ・ビートルズのレコードのジャケットに使われているという驚愕の事実をご存知でしょうか。映画「悪霊島」の主題歌に「レット・イット・ビー」と「ゲット・バック」が採用され、オリジナルサウンドトラックのジャケットに西ノ島町の観光名所である磨天崖の写真が使われているのです。西ノ島町ではこのとき映画の撮影も行われたようです。でも、実際に隠岐には「悪霊」なんていませんので、ご安心ください。

同じ磨天崖をはじめとする西ノ島町の観光名所では、地元島根の女性二人組ことのはの「路変花」のプロモーションビデオが撮影され、動画配信サイトで配信されています。美しい景色と二人のかわいらしい歌声を満喫できますのでぜひご覧ください。

最後になりましたが隠岐諸島の最西端の知夫村からは、高津久横穴墓群から出土した副葬品を展示します。この横穴墓群の副葬品の特徴は多彩な玉類です。離島に人知れず残されていた横穴から美しい装飾品の数々が発見されたことを想像すると、まさに「歴史のロマン」を感じます。知夫村はNHK朝の連続ドラマ「だんだん」の舞台となり、観光名所の赤壁や赤ハゲ山で撮影が行われました。

映画や音楽、ドラマの話ばかりになってしまいましたが、今回の展覧会は昭和54（1979）年に島根県立八雲立つ風土記の丘資料館で開催された特別展「隠岐の国」以来、34年ぶりの総合展示になります。貴重な機会となりますのでぜひ展示をご覧ください。また実際に隠岐に足をお運びいただいで、雄大な自然に抱かれた島の歴史文化をじかに感じていただきたいと思います。

[れきはく通信]

企画展「隠岐之国」開催中にあわせエントランスに隠岐コーナーを設置します。展示では紹介できない「隠岐之国」関連の情報を紹介します。

・隠岐関連のパンフレット ・隠岐関連ポスター・チラシ ・隠岐PR映像など

ミュージアムカフェでは特製メニューを用意していますのでお楽しみに。また、ミュージアムショップでも特選グッズを用意してお待ちしております。

パスポート会員様へ

【新サービスのご案内】

パスポートの更新時にメールアドレス（携帯も可）を登録いただくと、期限切れの前（約30日前）に更新の通知メールを送付いたします。期限内の会員様も総合受付もしくはメールにてお申し込みを受け付けています。

※期限内更新は1ヶ月の期限延長や、ポイントの移行など、サービスもあります。

いにしえ倶楽部

『出雲の王墓探訪－古墳ロードを歩く－』開催

埋蔵文化財調査センターでは、島根県の歴史・文化をより身近に感じていただくことを目的に、センターが保管する遺物などを活用した体験講座を毎年3回程度開催しています。

今年度の第1回目については前号で紹介したとおりですが、10月21日（日）には『出雲の王墓探訪-古墳ロードを歩く-』と題し、秋の意宇平野を舞台にしたウォークラリーを開催しました。大橋川沿岸に造られた大型古墳と古墳時代の道路推定地を実際に歩いて、いにしへの風情を体感するという初めての試みです。松江市朝酌町から大草町まで約4kmの道のりで、19名の方に参加いただきました。

初めに朝酌町にある全長約60mの前方後円墳、魚見塚古墳を見学しました。現在後円部を発掘調査中で、調査担当者が古墳の特徴や造り方について説明しました。続いて、当時の水上交通の要衝だった大橋川を、「矢田の渡し号」で渡りました。奈良時代にまとめられた『出雲国風土記』には、「朝酌渡」に渡船があったと記されており、矢田の渡しには1300年以上の歴史があります。



発掘調査中の魚見塚古墳を見学。墳丘の盛土の様子がよくわかります。



古代と同じように、渡し船で大橋川を渡ります

大橋川を渡るとすぐに、日本最古級の人物埴輪が出土した国史跡石屋古墳があります。閑静な住宅街の中でもその大きさは圧倒的です。古墳時代の道路推定地をさらに南へ進むと、古代の峠があった間内越遺跡に達します。これをぬけると意宇平野が広がっています。古代の土地区画である「条里」と出雲国府を貫く古代山陰道が整備される以前の道路の推定地を歩いて古墳時代に思いをはせました。その後、出雲国庁跡の下層で見つかった古墳時代の首長居館推定地でゴールとなりました。

「なかなか個人では歩けない道が歩けた、しかも古墳時代のロードを」「風土記の丘地内にある他の時代の遺跡も同様に廻りたい」「他の地域の古墳も廻りたい」など参加された皆さんには大好評でした。



石屋古墳は史跡公園になっています。



当日開催されていた「国府まつり」会場で一休み。国府汁に舌鼓をうつ一行

いにしえ倶楽部では、これからも古代に親しみをもってもらえるような企画を考えていきますのでご期待ください。

皆さんも博物館の一員です!～ミュージアムIPMの取り組み～

古代出雲歴史博物館 主任学芸員 澤田 正 明

博物館には、木、紙、布などムシの餌になりやすい文化財がたくさんあります。また湿気が溜まる場所ではカビが生えてしまい、文化財を汚したり、カビを食べるムシが集まって、そのムシの死骸を食べるムシがまた集まって、それらのムシは木や紙や布も食べるムシだったりして、、、と悪循環に陥ります。IPMとはIntegrated Pest Managementの頭文字をとったもので、「総合的有害生物管理」という、文化財をムシやカビから守る手法です。普段からムシやカビの被害が発生しない環境を維持しようという取り組みを、次のような手順で行います。

1. 回避：埃が溜まり、温湿度が上がるとムシやカビには好条件となりますから、清掃や温湿度管理をして清潔な空間を保ちます。(写真①)
2. 遮断：外からムシが入り込まないように、扉を開けっ放しにしないことや、扉やシャッターの隙間にブラシやパッキングを付けて通り道をなくします。
3. 発見：人の出入りにあわせてムシが入り込んでしまうことは防ぎきれません。文化財に被害が出ないように、どのルートで入り込みやすいかをモニタリングします。(写真②③④)
4. 対処：ムシの侵入があったら、原因を見つけて回避や遮断の強化などの対処をします。文化財に被害がある場合は燻蒸やクリーニングを行います。借りてくる文化財に被害が見つければ、まずは対処です。
5. 復帰：燻蒸して殺虫・殺菌された文化財でも悪い環境に置いてしまうと、再び被害が出ます。清潔で安全な空間に戻し、また回避から取り組んでいきます。(写真⑤⑥)

このように地道な活動を続けることは、非常に重要な取り組みです。何でも薬剤で燻蒸することは簡単ですが、文化財や環境に対する影響や作業者の安全を考えると、できるだけ少ない方が良いのです。

文化財を安全に保管していくためには、エントランスや事務室のような自由な空間、展示室やバックヤードのように警戒する空間を設け、絶対に守る空間として展示ケースや収蔵庫があります。ミュージアムIPMは、博物館に関わる全員で取り組む必要があります。博物館に関わる全員、それは学芸員、事務職員、警備員、清掃員、アテンダント、ボランティア、そしてお客様。展示室内は飲食できない、トイレがないなど、皆様にとって不便な点もありますが、貴重な文化財の守の一員となっただきますよう、ご協力をお願いします。



写真① 収蔵庫も定期的に清掃します。



写真② モニタリングトラップ。



写真③ 1ヶ月毎にトラップを交換します。



写真④ 空中の菌をサンプリングしてカビ発生状況の危険性を調べます。



写真⑤ 燻蒸庫



写真⑥ 燻蒸は最後の手段です。

「日本海沿岸の^{せきこ}潟湖における景観と生業の変遷の研究」

島根県古代文化センター 専門研究員

野々村 安浩

現在の宍道湖・中海・神西湖等に面影を残す^{せきこ}潟湖景観は、青森の十三湖をはじめとして日本海沿岸や九州など各地に広く残っています。そこで、古代から中世を中心に、潟湖の歴史的役割を明らかにするために、平成23年度からテーマ研究「日本海沿岸の潟湖における景観と生業の変遷の研究」を進めています。

この研究では、北陸地方など、日本海沿岸地域の潟湖の歴史的景観の変遷を比較研究するとともに、潟湖を取り巻く古代の景観が、その後今日までどのような変遷をたどったのか、山陰地方から北陸地方まで広く検討を行い、潟湖から見た地域史像を探ることも研究の目的のひとつにしています。

^{せきこ}潟湖は、地質学では海に近い水域が砂州の発達によって、外海から隔てられ湖沼化した地形とされています。特に日本海沿岸では潮差が少ないため、太平洋側に比べて多く生成しています。ただし、これらには流入する河川が運ぶ土砂による埋積や、現代まで引き継がれる干拓事業などによってすでに消滅してしまっ



神西湖(島根県出雲市)

ってしまったものも多いのです。たとえば、鳥取県米子市の淀江には、古代には「淀江湾(淀江湖)」が広がっており、周辺の遺跡から出土した遺物から九州方面との関係が想定されますが、現在では水田になっています。また、新潟県の紫雲寺潟(塩津潟)は、日本海岸沿いの砂丘の裏(東側)の低湿地が江戸時代の干拓事業による新田開発の結果、現在の景観になっています。かつて大田市にあった波根湖も、1943年からの干拓により耕地が造成されました。

^{せきこ}潟湖は「港」としての役割も持っていました。益田平野では、高津川・益田川の河口部にかつては「古益田湖」ともいえる内湾が広がっていたようですが、周辺の遺跡の中には中世の港湾遺構も発見されています。中世の朝鮮半島や東南アジアの陶磁器などの出土遺物から広域にわたって交流を持った港湾としての性格が窺えます。また中須公民館所蔵の古文書からは、開発の対象とされる一方で、江戸時代後半になっても周辺の小河川流域との関わりの中で主要な港湾であり続けるかつての潟湖沿岸部の様子を知ることができます。

また、水と陸とのほごまに立地する潟湖は、多様な生物相を有する空間でもありました。

人々は^{せきこ}潟湖の豊かな植生・生物相を資源として、漁撈、狩猟、農耕肥料や工芸用材の採取などを行ってきました。多様で複合的な生業活動と、それを支える豊かな知の蓄積とが、それぞれの潟湖ごとに存在したのです。かつての潟湖をめぐる多元的な思想と実践は、環境保全や地域振興の今後を模索するうえで、重要な視座を提供するようにも思われます。

このように、「失われた」潟湖の存在とその歴史をたどることによって、人々の多様な関わりあいの変遷や、潟湖が果たした社会的な機能の諸相を窺うことができるのです。



魚伏籠を使用した魚とり(鳥取県気高町大堤)

冬のイベントのご紹介

「れきはく正月まつり」 平成26年1月1・2・3日

・毎年恒例 縁起もちつき+ふるまい（午前・午後 各1回）・番内衣装試着体験（無料）

勾玉トリュフづくり

アテンダントが講師となってトリュフづくりからラッピングまで体験できます。

日時：平成26年2月2日（日） 10:00～11:30/14:00～15:30 1回2日

場所：古代出雲歴史博物館 体験工房

定員：各回20名 参加費：500円

お問合せ・お申込み：古代出雲歴史博物館



平成26年度 企画展 スケジュール

特別展

「近江巡礼 祈りの至宝展」

【開催期間】

平成26年3月28日（金）～5月11日（日）

特集展

「板締の世界」

－藍板締・紅板締・中国藍夾纈きょうけち－

【開催期間】

平成26年6月6日（金）～7月6日（日）

企画展

「倭の五王と出雲の豪族」

【開催期間】

平成26年7月25日（金）～
9月15日（月・祝）

企画展

「修験の聖地 浮浪山鰐淵寺」

【開催期間】

平成26年10月10日（金）～
11月24日（月・祝）

特集展

「尾道松江線発掘物語」

【開催期間】

平成26年12月26日（金）～
平成27年2月22日（日）

企画展

「入海の記憶～潟・港・内海～」

【開催期間】

平成27年3月27日（金）～5月17日（日）

古代歴史文化賞決定記念 講演会+特別対談

島根から発信！古代との新たなる出会い 日本の始まり

平成25年12月15日（日） 14:00～16:50 くにびきメッセ多目的ホール 入場無料

【第1部】受賞記念講演

「大和政権と出雲」 都出 比呂志（古代歴史文化賞受賞 大阪大学名誉教授）

「知られざる出雲」 関 和彦（古代歴史文化しまね賞受賞）

【第2部】特別対談

「古代出雲の大地に立つ!!」 安彦良和×関 和彦（古代歴史文化しまね賞受賞）

●参加申し込み方法

- ・聴講には入場券が必要です。
- ・定員600名（申し込み多数の場合は抽選を行い、ハガキにて結果をお知らせします。）
- ・申し込み締め切り 11月29日（金）
- ・①代表者氏名 ②代表者住所 ③電話番号 ④申し込み人数（申し込み1件につき、1名または2名）を記入のうえ、ハガキ・FAX・ホームページの申し込みフォームかメールにて申し込みください。

●申し込み・問い合わせ先

島根県古代文化センター 文化賞記念イベント係

TEL：0852-22-5750 FAX：0852-22-6728 E-mail：bunkasho@pref.shimane.lg.jp

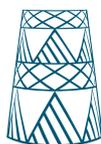
島根県文化財課ホームページ（<http://www.pref.shimane.lg.jp/bunkazai/>）の最新情報「古代歴史文化賞記念講演会+特別対談申し込みフォーム」よりお進みください。

古代歴史文化賞

「古代国家はいつ成立したか」
都出比呂志（岩波書店）



発行/平成25年11月



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
URL：<http://www.izm.ed.jp> E-mail：contact@izm.ed.jp
開館時間 9:00～18:00（11月～2月は、9:00～17:00）



マスコットキャラクター
雲太くん



マスコットキャラクター
出雲ちゃん